「父親」になったゲイの男性と、施設で育った「息子」
これは少し不思議な、普通と違った「家族」のドキュメンタリー

児童養護施設等の子どもたちの自立支援団体で働く網谷勇気(40)。自身がゲイである彼は、様々なマイノリティのための団体を立ち上げ、講演会なども行っていた。
ある日、彼は小さなアパートに引っ越し、一人の青年・渉(20)を迎え入れる。渉は、勇気がこれまで支援してきた子どもたちのうちの一人であったが、あるとき、事件を起こし拘置所に入れられてしまう。身の置き場を失った渉に対し、勇気は養子縁組をすることで、自らが父親となって共に暮らすことを提案する——。
幼少期より児童養護施設に預けられ、両親の顔も知らずに育った渉と、それまで家族をつくることを想定していなかった勇気。照れ臭さと緊張をにじませながら、二人の新たな共同生活が始まった。複雑な生い立ちを抱え、多感な年頃である渉との関わり方に勇気が戸惑うなか、生まれて初めて帰るべき家を手に入れた渉は、アルバイト生活を送りながら自身の夢へと動きだしたのだが……。

二十歳の息子

『春を告げる町』『ドコニモイケナイ』島田隆一最新作
どんな枠組みにもとらわれない　2人だけの家族の「カタチ」

監督は、ゼロ年代に生きる若者の夢と挫折を描いたデビュー作『ドコニモイケナイ』(12)で第53回日本映画監督協会新人賞を受賞し、2作目の『春を告げる町』(19)では、福島県広野町を舞台に震災の復興とは何かを問いかけた島田隆一。新たに始まった共同生活を1年にわたり記録した島田は、そこに生じるぎこちなさや軋轢、そして静かな心の交流を描き出している。被写体を見つめるカメラは親密でありながらも時に残酷なほど冷徹な眼差しを向け、感情の機微を丁寧にすくい上げる。また、極力説明を省くことにより、決して理解することができない他者への想像力を掻き立てていく。
それぞれに普通の家族や人生を選択してこなかった/できなかった年齢の離れた2人の男性が、ゼロから新たな関係を作る。それは2人の「生きなおし」の旅でもあった。どんな枠組みにもとらわれず、人が人とどう繋がりをもつことができるのか。そんな困難な問いを、本作はしなやかに捉えている。

網谷勇気　網谷渉　撮影:林賢二/前田大和　編集:遠山慎二　整音:川上拓也　音楽:河北聖子　製作:JyaJya Films　配給:ブライトホース・フィルム
文化庁「ARTS for the future!」補助対象事業　2022年 | 日本 | 86分 | カラー | 16:9 | DCP | 5.1ch | ドキュメンタリー

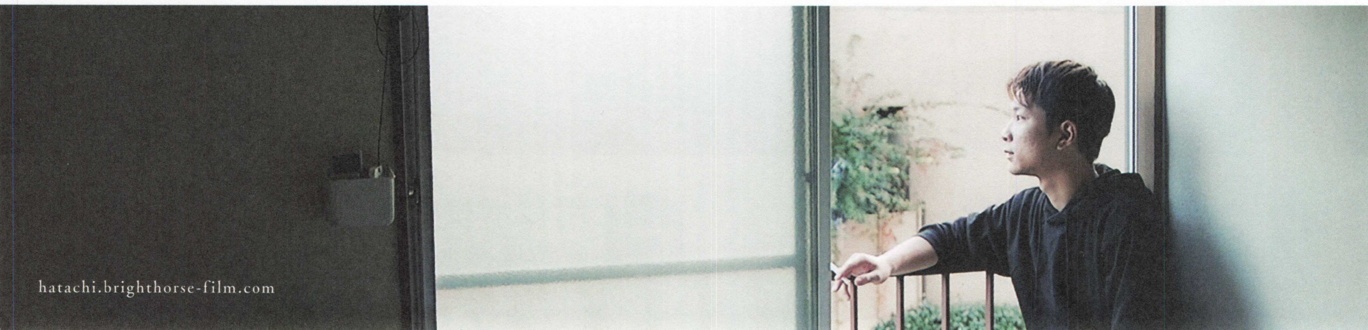
hatachi.brighthorse-film.com

2.11(土)よりロードショー

ポレポレ東中野
03 3371 0088 pole2.co.jp
JR東中野駅西口改札北側出口より徒歩1分
都営大江戸線A1出口より徒歩1分

島田隆一 監督作品

二十歳の息子

網谷勇気　網谷渉

撮影：林賢二／前田大和　編集：遠山慎二　整音：川上拓也　音楽：河北聖子　製作：JyaJya Films　配給：ブライトホース・フィルム　文化庁「ARTS for the future!」補助対象事業　2022年｜日本｜86分｜カラー｜16:9｜DCP｜5.1ch｜ドキュメンタリー